

# 農大だより二十一号

発行：平成 29 年  
3 月 14 日  
栃木県農業大学校  
〒321-3233  
宇都宮市上籠谷町  
1145-1  
Tel：028-667-0711



## 農大の新たなチャレンジ

副校長兼教務部長

小池 則義

本校は、明治三十八年に創設された「下延生農業補習学校」を前身とし、昨年創立百十周年を迎えた歴史と伝統のある学校です。この間、一万一千人を超える学生が巣立ち、多くの卒業生が本県農業の振興の場で活躍しています。

本校では、このような先輩方に続く優れた農業の担い手を育成し、多くの県民の皆様から期待される魅力ある農業大学校となれるよう日々、学生、職員が新たなチャレンジに取り組んでいます。その一部を紹介いたします。

### ○最新技術 ICT の導入

環境制御装置等最新設備を備えた高軒高トマトハウスをはじめとした園芸施設では、施設内温度、湿度、照度、炭酸ガス濃度など、作物の生育環境の確認や制御をスマートフォンやタブレットにより

管理する ICT 技術を導入。稲作部門では、水田センサーを設置して、水位や水温を教室等で確認しながら水田管理の省力化を体験。

また、畜産部門においても、牛の体温の変化等により分娩開始をスマートフォンに知らせるシステムを試験導入し、適期・適切な分娩介助につなげ事故防止に役立っています。この様な先端技術について、学生が興味を持って真剣に学習しています。

なお、これらの新技術導入では、全農とちぎ及び NITドコモの御支援、御協力をいただきながら、新たなチャレンジを行ってまいります。

### ○積極的な情報発信

多くの農業関係者や県民の皆様  
に本校を理解していただくため、積極的な情報発信に努めています。検索し易いようホームページをリニューアルすると共に、授業、実習の様子を中心に学校行事や農

大直売所情報等、休日以外のほぼ毎日新たな情報を発信しています。ぜひ皆さんも農大ホームページを覗いてみてください。

また、紙面での情報提供では、地域の地道な取組など、県内の温もりを季節ごとに届ける情報誌「しもつけの心」の御協力により、「次代の農業を担う」及び「農を学ぶ」をテーマに、学生が将来を見据え学習に取り組む姿や本校の学科紹介をシリーズとして取り上げていただいています。

### ○学生の進路支援を強化

学生の就農をはじめとした進路決定に対し、農業法人を招いた雇用就農相談会等の開催や校長による個別指導の実施等、進路支援を強化しており、学生の進路決定も過去に比べ早まっています。なお、今年度卒業生の就農者（即就農、雇用就農、研修後就農を含む）は二十八名（全体の五十二％）で近年では一番多くなっています。

農政新時代に対応する魅力ある農大となるよう、今後も学生、職員が一体となって新たな取組にチャレンジしてまいりますので、引き続き皆様の御支援、御協力をお願いいたします。

## 関東ブロック

### プロジェクト発表会

平成二十八年度関東ブロック農業大学校等業績発表会が、茨城県土浦市で平成二十九年一月十九日から二十日に開催されました。

プロジェクト発表の部は、園芸経営学科野菜専攻二年黒崎諒さんと、畜産経営学科二年大橋歩夢さんが、これまで熱心に取り組んできた研究の成果を発表しました。また、意見発表の部では、農業経営学科一年清水光男さんが、「私と農業く故郷への思い」と題し、自分の考えを発表しました。来年度は、本県で平成三十年一月に開催する予定です。



# 卒業論文発表会（本科2年生）

## －農大での学習の集大成－

平成二十八年度卒業論文発表会が、平成二十九年一月二十七日に開催され、本科各学科専攻の代表者八名が研究結果を発表しました。発表に先立ち、伊藤校長から「二年間の成果を発表できる機会であり、一年生は卒論をまとめる参考になる機会です。」と挨拶がありました。

各発表者は研究内容を学生を前に発表を行い、一年生もこれから始まる卒論研究に向けて真剣な眼差しで聞き入っていました。

最優秀賞には、日頃の飼養管理上の課題を見つけて出し、学生と職員が協力して改善に取り組んだ畜産経営学科・大橋歩夢さんの『栃木県農業大学校における乳用牛の飼養管理改善による生産性の向上』が選ばれました。

学科専攻	氏名	タイトル
農業経営学科	落合拓也	ネギの品種の違いによる生育・品質・収量の調査
農業経営学科	大島芹奈	窒素質肥料の増肥によるゆめかおりの生育・収量・品質および食味の違い
園芸経営学科 野菜専攻	慶野博昭	ミニトマト栽培における品種の違いが生育・収量・品質に及ぼす影響
園芸経営学科 野菜専攻	中村太紀	土耕栽培と溶液栽培の違いがイチゴの生育・収量に及ぼす影響
園芸経営学科 花き専攻	室井友多	スプレーギク栽培における栽植密度の違いが生育・品質に及ぼす影響と経済的評価
園芸経営学科 果樹専攻	久野華奈子	梨品種「幸水」による環状剥皮処理時期の検討
畜産経営学科	大橋歩夢	栃木県農業大学校における乳用牛の飼養管理改善による生産性の向上
畜産経営学科	山崎綾香	栃木県農業大学校におけるエコフィード給与の検討



2年生の進路状況

学科・専攻	卒業予定者数	就農予定					就職予定		進学その他
		即就農	研修後就農	雇用就農	うち内定	うち内定			
農業経営	17	7	6	1	0	0	10	9	0
園芸・野菜	13	7	2	1	4	4	6	6	0
園芸・花き	9	4	0	2	2	2	5	4	0
園芸・果樹	4	3	1	0	2	1	1	1	0
畜産経営	10	6	1	0	5	5	4	3	0
計	53	27	10	4	13	12	26	23	0
構成比	100%	50.9%					49.1%		0.0%

注)平成29年2月20日現在  
就職内定率は88.4%(雇用就農を含めると89.7%)

卒業予定学生五十三名の進路は、就農予定者二十七名、就職予定者二十六名で就農予定者が約半数となりました。  
また、就農予定者のうち十二名が雇用就農内定、三名が海外農業研修の予定です。就職内定者のうち、農協を含めた農業関連団体及び農業食品関連企業が十七名となっています。

二十八年度卒業生の進路



# 先進的経営体実習（本科1年生） — 経営能力と豊かな人間性を養う実践的教育 —

一年生は、農業技術者として必要な能力の向上と豊かな人間性を養うことを目的に、平成二十八年八月二十九日から九月二十九日（実習日数二十二日間）まで県内の先進的経営体で実習を行いました。実習先は、農業振興事務所が選定した先進農家や農業法人等です。

生産現場での実習を通して、栽培技術や飼養管理技術の習得はもとより、農業経営者として必要な経営理念や農業に対する思い等多くを学びました。

学生は、実習を最後までやり遂げた達成感から農業技術者としてひとまわり成長したようです。農大祭では、実習先からの励ましの言葉が記された色紙を展示しました。

受入先並びに関係機関の皆様には、改めて御礼申し上げます。

## ○農業経営学科

【鹿沼市土地利用型経営体】



## ○園芸経営学科（野菜専攻）

【上三川町トマト農家】



## ○園芸経営学科（花き専攻）

【鹿沼市花き農家】



## ○園芸経営学科（果樹専攻）

【市貝町なし農家】



## ○畜産経営学科

【那須町肉用牛農家】



農大祭で展示された実習先から頂いた教訓等の色紙





# 第40回農大祭

## 大地讃頌～人は皆農業で育つ～

第四十回農大祭が、平成二十八年十一月二十六日・二十七日の二日間開催されました。

第四十回の節目でもあることから、農大祭実行委員会で検討を重ね、昨年以上に盛り上げるため、準備を進めて来しました。

農業高校生による舞や本校卒業生のダンスパフォーマンスなどのステージイベントも行われ、盛り上げていただきました。

また、本科卒業生の出店、展示の充実のほか、撮影ポイントをか所設け、自由に記念撮影等していただきました。

初日は天気に恵まれ、ここ十年では最多の来場者数となりました。二日目は、午後から雨となりましたが、本校軽音楽サークルの演奏で農大祭をしめくくり、充実した農大祭となりました。



### 成績優秀学生 & 優良提案を表彰

(一) 学業優秀者校長表彰等

本校では、毎年、学業・人物ともに優秀で他の模範となる学生を校長表彰しています。平成二十八年度の受賞者は次の通りです

農業経営学科 大島芹奈

園芸経営学科(野菜) 大島若奈

園芸経営学科(花き) 江連孝史

園芸経営学科(果樹) 馬場智大

畜産経営学科 市川元基

なお、受賞者のうち特に優秀として次の表彰がありました。

「全国農業大学校協議会長賞」

園芸経営学科(花き) 江連孝史

また、学校・クラス発展等に寄与した功績で表彰がありました。

「農業大学校同窓会全国連盟会長賞」

園芸経営学科(花き) 室井友多

(二) 学生提案優秀者校長表彰

実習や農場管理等に関する改善提案募集で、七十一名の学生から七十九件の提案があり、次のとおり優秀者を表彰しました。

「最優秀賞」

園芸経営学科(野菜) 櫻井良太

「優秀賞」

園芸経営学科(花き) 室井友多

畜産経営学科 齋藤 誠



# キャンパスライフ

(平成28年7月～平成29年2月)

## 来年度の学生 自治会役員決定

七月八日に自治会役員選挙が行われました。

次期会長には三名、次期副会長には四名の立候補があり、次のとおり新役員が決まりました。

○会長

農業経営学科  
渡邊 公成

○副会長

農業経営学科  
笹崎 誠  
園芸経営学科野菜専攻  
和久井 瞳

## 秋季校内スポーツ 大会&収穫祭

平成二十八年十一月二日に秋季校内スポーツ大会及び収穫祭が開催されました。

バレーボール、卓球、バドミントン、ドッジボール、綱引き及びクロスカントリリーリーの六種目が行われ、職員も綱引きとクロスカントリリーリーに出場し、学生と共に汗を流しま

した。

学科別などで構成された四チームに分かれて各競技を競い、総合優勝は春季スポーツ大会に引き続き、農業経営学科でした。



お昼に開催された収穫祭では、本校で収穫された米や野菜などで作った弁当と豚汁をいただき、学生にとって思い出に残る一日となりました。



## 六次産業化を目指し 加工実習

平成二十九年二月六日・十三日に、連携協定を締結している学校法人三友学園の協力を得て、昨年に続いて本科二年生五十四名が六次産業化実習が実施されました。

本校で生産されたトマト・いちごを利用し、三友学園の指導の下パスタや洋菓子などの調理を行いました。また、実際に試食も行い、出来上がった物の味を実感したり、ラッピングなどについても学び六次産業化に関する資質の向上につながりました。



## 寮生活で一生涯の 思い出づくり

学生寮で生活する学生は、楽しく明るい寮生活がおくれるよう自主的に「寮生会」を組織して、学習生活や環境整備、レクリエーション活動等、様々な活動を行っています。

○バーベキュー大会



○ボーリング大会



# 研 修 部 門 の 紹 介

## 「とちぎ 農業未来塾」

四月に開講した「とちぎ農業未来塾」は八十九名でスタートしました。各種作物の栽培基礎やそれぞれの専門品目についての栽培技術、農業経営や農作物販売に必要な知識を学びました。

一定年帰農希望者研修と新規就農希望者研修基礎コースでは、降雨等により予定した作業ができない日もありました。一部作業内容を変更するなどして実施することができました。



## 食と農の 起業家養成研修

十一月から開講した「食と農の起業家養成研修」は、四回の講座合計で七十五名（延べ）でスタートしました。

基礎講座では、農村起業活動に係る知識・心構えを学び、専門講座の加工講座では米粉を活用した食品加工の基礎技術、商品開発講座では地場産の生産物を使った食品加工実習と食品衛生関係の法規などを学びました。

最後の経営管理講座では、農村起業の計画づくりとマーケティング、県内の具体的事例を基にしたケーススタディを行いました。



## とちぎ農業 ビジネススクール

七月から開講した「とちぎ農業ビジネススクール」は、県内各地から選ばれた十九名の研修生でスタートしました。

商品開発のアイデアや販売戦略としてのマーケティング、雇用管理、財務管理などを学んだほか、農業経営者としての人間力、発想力などについて演習を交えて学びました。さらに、各自の個別課題を整理分析し、その改革を図る「経営改革プラン」を策定しました。

今後はこのプランを実現しつつ、各地域の経営モデルとなり、本県農業のけん引役となるものと期待されます。



## 平成二十九年 度 農業機械研修計画

☆農業機械士養成研修（前期）  
①九月二十七日～十月十三日  
②十月三十日～十一月十七日  
③二月七日～二月二十三日  
定員は①・②は各二十五名、③は十五名程度です。研修期間は十日間で農耕車限定の大特免許も取得できます。

★農業機械士養成研修（後期）  
①十一月二十九日～十二月七日  
②十二月十三日～十二月二十一日  
③一月十五日～一月二十五日  
定員は①・②・③各二十名です。研修期間は六日間で農耕車限定のけん引免許を取得できます。

研修申込み期間は七月十日～三十一日まで。研修受講申込書に必要書類を同封し農業大学校農業機械研修担当宛（〒三二一―三二三三 宇都宮市上籠谷町一四五一）送付してください。

受講申込書は各農業振興事務所、農協等に置いてある農業機械研修計画や、農業大学のホームページ（「栃農大」で検索）にありますので申込書を印刷して使用してください。なお、申込者多数の場合は抽選となります。